2019.05

IAUD Newsletter vol.12



No. 2

IAUD Newsletter vol.12 第 2 号(2019 年 5 月号	5 月号	年	2019	子(2	2 号	第	vol.12	Newsletter	\UD	L
--	------	---	------	-----	-----	---	--------	-------------------	-----	---

1. 「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」開催報告③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		1
2. 「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(
3. IAUD 5 月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • 1	3



「UD による持続可能な発展」を世界の有識者と考える

「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議2019 in バンコク」開催報告③



最終日に行われたクロージングセッション会場の様子(タイ・バンコク)

初の海外での開催となった「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議2019 in バンコク」が3月4日(月)から6日(水)までの3日間、モンクット王工科大学ラートクラバン校コンベンションホール(タイ・バンコク)で行われ、世界各国から多数のご参加をいただき大変盛況のうちに終了いたしました。

今回のテーマは、国連が 2030 年までの達成目標としている「持続可能な開発目標(SDGs)」に呼応した「UD による持続可能な発展」とし、2 日目と 3 日目には世界各国から UD 有識者を多数お迎えして、テーマに沿った 9 つのセッションが行われました。

今号の Newsletter ではセッションの実施概要をご紹介します。

※「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」開催速報及び開催報告①は下記の Newsletter をご覧ください。

IAUD Newsletter vol.11 第 12 号(2019 年 3 月号) https://www.iaud.net/newsletter/11136/ IAUD Newsletter vol.12 第 1 号(2019 年 4 月号) https://www.iaud.net/newsletter/11136/

■セッション 1 高齢社会における UD1 基調講演:高齢化と SDGs、アジア健康構想

駒澤 大佐(ERIA 東アジア・アセアン経済研究センター総長特別顧問) 司会進行: 久保 雅義(大阪芸術大学特任教授: 日本)







講演する駒澤氏(写真左)と司会進行の久保氏

セッション 1 会場の様子

ERIA の駒沢氏より、アジア諸国の高齢化の実態と、日本政府による貧困を克服し経済成長をはかる支援協力を通した持続可能な社会構築について講演がありました。

「アジアの高齢者の数値的理解」「アジアの高齢化実態」「日本の保険制度、介護制度との比較」「アジア諸国の生活の質(QOL)向上と健康への取り組み」「ERIAの活動」について説明があり、高齢化は年金制度と皆保険の有無が生活の質に影響を及ぼすことが明らかになりました。

また、高齢者介護やサーヴィスの応用、高齢者健康管理の情報提供、具体的な貧困層と脆弱層への社会的保護支援など、日本が進めてきた具体的な活動の説明がありました。

SDGs を克服するためにはきめ細かく現状把握と支援協力を個々に進めていかなければならないことがわかりました。

■セッション 2: 産業振興による UD 1 パネルディスカッション: イノベーションと UD

パネリスト: ウィア・クロリウス(人間中心デザイン研究所ユーザー・エキスパートラボ部長: 米国) オンニ・エイクハウグ(EIDD デザインフォーオール・ヨーロッパ会長: ノルウェー) ラーマ・ギーラオ(王立芸術大学院へレンハムリンセンター所長: 英国) 司会進行: アンティカ・サワスリ(モンクット王工科大学建築学部長: タイ)









左からパネリストのクロリウス氏、エイクハウグ氏、ギーラオ氏、司会進行のサワスリ氏

クロリウス氏は、デザイン業界でのダイバーシティ不足や限定的なユーザー参加など課題を 指摘し、多様な形でユーザーと触れていくリサーチ活動で真のデザインシンキングが実践でき るとし、デザイナーの役割は多様な背景を持つ人をつな げることだと述べました。

エイクハウグ氏は、ノルウェー政府の UD アクションプラ ンやノルウェーデザイン協議会のイノベーションオールプ ログラムなどから UD がイノベーションを牽引した事例を紹 介し、戦略を実施するには UD の競争優位性や高齢者顧 客の重要さを企業に理解してもらうべきだと話しました。

ギーラオ氏は、王立芸術大学院ヘレンハムリンセン ターのインクルーシヴデザイン事例を紹介しながら、デザ インは社会を変え、権力でなく共感力を産業界につなげられ



セッション 2 会場の様子

るとし、ユーザー参加リサーチやプロトタイプのテスト、クリエイティヴ・ブリッジなどデザイン手 法も解説しました。

■セッション 3: 産業振興による UD 2 パネルディスカッション:ユーザーフレンドリーデザイン&サーヴィス

パネリスト:トーマス・バーデ(IUD ユニヴァーサルデザイン研究所所長:ドイツ) 中尾 洋子(パナソニック(株)デザイン戦略室先行開発課課長:日本)

大山 繁樹(日経 BP 社シニアエディター:日本) 司会進行:森 秀男(IAUD 衣の UDPJ 主査:日本)









左からパネリストのバーデ氏、中尾氏、大山氏、司会進行の森氏

バーデ氏は、ドイツの UD 動向を報告し、特に大企業よ り中小企業の方が積極的に取り組んでいること、社会起 業家精神を活かしたホリスティックなプロセスを重視する 新しいデザイン開発の重要性などを語りました。

中尾氏は、「UD in the New Age」のテーマで、UD 思想に よる技術を活用して人と社会の両者の幸せとウェルビー ングを目指した歩行トレーニングロボットやポーターロボッ ト、自動搬送システム、顔認証ゲートを紹介しました。



セッション3会場の様子

大山氏は、「デジタル×デザインが創る新 UD 社会」をテー マに、その概念や開発ポイント、事例を紹介し、その掛け合わせは可能性を広げ、スマートフォ ンなどの一般的な技術でも簡単にサーヴィス化ができる一方、人を思いやり共感する気持ちが ないといけないと説明しました。

司会進行の森氏は、IAUDの研究部会「衣の UD プロジェクト」の基本的な概念と枠組みや活 動報告、事例を紹介し、特に産業界や公的研究機関、大学・学会、消費者との共創に努めて いることを強調しました。

■セッション 4:地域振興における UD 1 パネルディスカッション:持続可能な UD 社会

パネリスト: 是澤 優(国際連合人間居住計画アジア太平洋事務所長:日本)

サワン・スリソム(チュラロンコン大学:タイ) 岩瀬 大地(東京造形大学准教授:日本)

司会進行:益田 文和((株)オープンハウス代表:日本)









左からパネリストの是澤氏、スリソム氏、岩瀬氏、司会進行の益田氏

是澤氏は、世界で都市化が進み極度の貧困が都市に集中している現状から、都市と人間の居住地をインクルーシヴで安全、強靭かつ持続可能にすることが求められているとし、世界各国での公共空間づくりの取り組み事例を紹介しました。

スリソム氏は、自身が車いす利用者であることから、バンコクでは色々な場所でアクセシビリティが保たれていないと指摘し、公共交通機関の実用性を高めアクセシブルにするために必要な5つのA(Availability、Acceptability、Accessibility、Adaptability、Affordability)を提示しました。



セッション 4 会場の様子

岩瀬氏は、観光への UD 適用により生ずる自然環境破壊やごみ、温暖化ガスの増加、伝統的建築物の標準化などマイナス影響を指摘し、UD 導入にはアクセシビリティとオリジナリティ、平等性と多様性のバランスも考慮するべきだと述べました。

■セッション 5:地域振興における UD 2 パネルディスカッション:建築・デザイン系大学の教育的役割

パネリスト:リティロン・チュタプルティコルン(バンコク大学建築学部長:タイ)アンティカ・サワスリ(CDAST タイ建築学部長協議会会長:タイ)ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長:米国)キットチャイ・ジットカジョンワニット(ワライラック大学建築学部長:タイ)ヌアンワン・トイチャルーン(カセサート大学建築学部助教授:タイ)司会進行:ジェームス・ハリソン(コーク大学建築教育センター:アイルランド)











左からチュタプルティコルン氏、サワスリ氏、フレッチャー氏、ジットカジョンワニット氏、トイチャルーン氏

チュタプルティコルン氏とサワスリ氏は、UD コンセプトを促進・普及させるには意識の向上が課題であるとし、タイ建築学部長協議会が取り組んでいる「タイの UD 戦略」プロジェクトから、バス停や寺院、障害者用住居のデザインや障害者職業訓練プログラム等の事例を紹介、将来の建築家がUD の重要性を理解し UD を生涯学習にすることが重要だと述べました。

フレッチャー氏は、人間中心デザイン研究所が取り組んできた事例を紹介する一方、米国での建築・デザイン教育現場でのアクセシビリティやインクルーシヴデザインへの認識不足を指摘し、建築・デザインは人々にとってソーシャルアートであることを再確認するべきと話しました。



司会進行のハリソン氏

ジットカジョンワニット氏は、ワライラック大学の研究から地域の人々を 巻き込んでデザインすることで理解が広がったタイ農村部高齢者への UD プロジェクトを紹介し、

トイチャルーン氏は、カセサート大学 UD 教育プログラムから高齢者と健康のためのデザイン事例を紹介し、UD を教育プログラムに含めることは重要で今後もウェルビーングや CSR 活動を推進していくと述べました。

■セッション 6:観光の UD1

基調講演:タイのインクルーシヴ・ツーリズム

タイの教育現場では実践性を重視していると述べました。

トリラット・ジャルタック(チュラロンコン大学 UD センター所長:タイ) 司会進行:アンティカ・サワスリ(モンクット王工科大学建築学部長:タイ)







ジャルタック氏(写真左)と司会進行のサワスリ氏

セッション 6 会場の様子

ジャルタック氏は、観光大国タイで実施されているすべての人間が娯楽を楽しみ障害なく ツーリズムを楽しめるツーリズム・フォー・オールの事例として、ハンドブック作成と実践、障害 者や高齢者向けに観光地を対応させた新規制の設置などの取り組みを紹介しました。

そして、障害者と高齢者の観光市場は近年増えており、ツーリズム・フォー・オールのコンセ

プトは促進されるべきで、それがインクルーシヴ経済や利益分配、シェアドエコノミーになり、誰も取り残さないという SDGs 達成につながると述べました。

さらに、インクルーシヴ・ツーリズムを促進し対策を立てる国家委員会の設置、ホテルやレストランの評価項目にアクセシビリティを入れる表彰制度の設置、スタッフが障害者や高齢者に適切なサーヴィスを提供できるトレーニングの実施を提案しました。

■セッション 7:観光の UD2

パネルディスカッション:観光の UD

パネリスト:フランセスク・アラガイ(デザインフォーオール財団代表:スペイン)

瀬戸 優樹(SoundUD 推進コンソーシアム事務局長:日本)

宮崎 湧(ZOLA Project 声優/Vocaloid:日本) 荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授:日本) 司会進行:松森 果林(余暇の UDPJ 主査:日本)











左からパネリストのアラガイ氏、瀬戸氏、宮崎氏、荒井氏、司会進行の松森氏

アラガイ氏は、ソフトなツーリズムの選択肢を増やすこと、 また全ての観光客のニーズを満たすためには共感する力 が大切で、それはビジネスチャンスでもあると話しました。

瀬戸氏と宮崎氏は、専用アプリで流れてくるアナウンスが多言語翻訳され文字で確認できるヤマハの音の UD 化(SoundUD)支援システム「おもてなしガイド」を紹介し、観光案内や災害時の情報提供にも有効であると述べました。



セッション 7 会場の様子

さらに、SoundUD 技術のひとつで、音声合成技術を使っ

てキャラクターが歌う音楽ソフト「VOCALOID」を紹介し、最後に VOCALOID シリーズ初の男性キャラクターユニット「ZOLA Project」の曲を実際に流して会場を盛り上げました。

荒井氏は、徹底したユーザー参加型の重要性を様々な事例をもとに説明し、リアルな現場観察を通して共感を問題解決に結びつけるワークショップや、観光地を UD で魅力的にする金沢の事例を紹介しました。

司会進行の松森氏は、観光の拠点となる空港の UD について、成田空港と羽田空港国際線ターミナルの事例を紹介しました。

■セッション 8: 高齢化社会における UD2 パネルディスカッション:高齢社会における UD-バリアフリーデザインと UD-

パネリスト:ジェームス・ハリソン(コーク大学建築教育センター:アイルランド) 秋山 愛子(国連 ESCAP アジア太平洋経済社会委員会:日本) チョムケット・サワンチャレウン(タマサート大学 UD センター:タイ) サオワラック・ソンクアイ(障害者インターナショナルアジア太平洋協議会:タイ) 司会進行:古瀬 敏(静岡文化芸術大学名誉教授/実行委員長:日本)











パネリストのハリソン氏、秋山氏、サワンチャレウン氏、ソンクアイ氏、司会進行の古瀬実行委員長

ハリソン氏は、1990 年代以降のアジアでの取り組みを紹介しながら、良い事例の提示や教育機関での研修が重要であり、成功事例を集めた機関や論文出版があれば良いとし、また ICT に依存するのではなく既存環境の改善が大切だと述べました。

秋山氏は、アジア太平洋地域の課題として公式値と実数値の違いや政府関係者の UD への理解不足を指摘し、さらに ESCAP の取り組みとして公的な購買政策を通じた UD 促進の事例を挙げました。



セッション8会場の様子

サワンチャレウン氏は、タイの UD の現状について報告し、多くの機関が UD の基準づくりを 進めているがUDの促進には人々の考えが障害になっているとし、「UDの7原則」に「多様性を 尊重する原則」の追記を提案しました。

ソンクアイ氏は、UD はデザインの解決策であり、情報やコミュニケーション、法律、人の態度などのバリアを取り除き、あらゆる人が利用できるようデザインされたものであるとし、すべてのサーヴィスにアクセスすることは市民の権利であると述べました。

■セッション 9: クロージングセッション パネルディスカッション: UD による持続可能な発展

パネリスト:ロジャー・コールマン(王立芸術大学院名誉教授:英国)ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長:米国)フランセスク・アラガイ(デザインフォーオール財団代表:スペイン)

高橋 陽子(日本フィランソロピー協会理事長:日本)

古瀬 敏(静岡文化芸術大学名誉教授/実行委員長:日本)

司会進行:川原 啓嗣(名古屋学芸大学大学院教授/IAUD 専務理事:日本)











左からパネリストのコールマン氏、フレッチャー氏、アラガイ氏、高橋氏、古瀬実行委員長

国際会議全てのプログラムの総括として、各国の UD 専門家に今回の会 議への意見や今後の UD 活動について伺いました。

コールマン氏は、この国際会議で UD が SDGs に果たしてきた貢献が確 認されたとし、UD の新領域は環境問題など新たな課題にも地域住民と共 に取り組み社会のレジリエンスを高めることであるとしました。

フレッチャー氏は、国連政策について今回のように感銘を受ける形で共 有されたことはないとし、次回はさらに多様な人々が結集することでより実 践的な解決策が出てくると提案しました。



アラガイ氏は、UD 普及には 40%の情熱と 40%の共感と 20%のリソー 司会進行の川原専務理事 スが必要とし、UD の実行により皆が恩恵を受けるという投資回収の考え を政治家や産業界に納得してもらうべきだと指摘しました。

高橋氏は、理事長を務めるフィランソロピー協会の活動として、東日本大震災後の UD 関連

の復興支援や一般市民を啓発する新事業を紹介しまし た。

古瀬氏は、権利としてのアプローチと組み合わせること で環境全体がよりインクルーシヴになり、これを民間企業 に説得することでよい未来につながると述べました。

会場からも多数の質疑や意見があり熱心な議論が行 われ、国際会議を締めくくるにふさわしい有意義なセッショ ンとなりました。



会場からも多数の意見が寄せられた

※「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク IUD 公開ワークショップの開催概 要は IAUD Newsletter vol.12 第3号(2019年6月号)に掲載します。



安全・安心な在宅腹膜透析を提供

「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介②: 金賞「患者さんの在宅腹膜透析を支える、自動腹膜灌流用装置 ホーム PD システム かぐや」 バクスター株式会社

「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介の2回目は、 医療福祉部門金賞を受賞したバクスター株式会社 の「患者さんの在宅腹膜透析を支える、自動腹膜灌 流用装置 ホーム PD システム かぐや」です。

この取り組みについて、IAUD 国際デザイン賞 2018 審査委員会のロジャー・コールマン委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は、「患者と介護者の双方に高い水準のユーザビリティをもたらすグッドデザイン。消費者からの関心の薄さの問題に対し、音声ガイドや、視野狭窄・視力低下への配慮、遠隔監視、医療従事者へのライブアクセスからなる一連の強力な対策を提示している」と高く評価しました。



「IAUD 国際デザイン賞 2018」表彰式 同社のフライ氏(写真左)と古瀬理事長

今号の Newsletter では、受賞内容をバクスター(株)の江川健太氏に報告していただきます。

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞結果と審査講評の詳細は下記のリンクをご覧ください。 IAUD 国際デザイン賞 2018 受賞結果発表: https://www.iaud.net/award/10936/ IAUD 国際デザイン賞 2018 審査講評: https://www.iaud.net/award/10938/

在宅医療である腹膜透析領域のパイオニアとして

バクスターは、腹膜透析領域のパイオニアとして日本で 30 年以上にわたり患者さん・医療者のニーズに応える独自の製品開発を行なっています。

「かぐや」は、在宅腹膜透析治療のために患者さんが操作する医療機器で、70歳以上の高齢者を多く含む患者さんの操作性に配慮したデザインを追求しています。

より多くの患者さんが、より安全で安心して行える在宅治療の提供と普及に尽力することで、患者さんがより自分らしく生きることを支え、日本の医療へ貢献してまいります。



自動腹膜灌流用装置「かぐや」本体

開発の経緯

患者さん・医療者 それぞれの不安

腹膜透析は、比較的少ない通院回数(普段の通院は月に 1~2 回程度。血液透析の場合、 月 12 回)で治療スケジュールを生活スタイルに合わせて行う事が可能です。

患者さんの潜在的な需要は高いと推察されていますが、機械の操作性が障壁となり、QOL (Quality of life、生活の質)の向上、社会参画の継続が可能な在宅透析である腹膜透析の選択を妨げていました。



ご自身で操作する事への 不安・障壁があり、 選択は限定的である。



トレーニング労力の負荷と 月1~2回のみの患者管理への 不安がある。

そこで、「かぐや」では現在の患者さん・医療者両者のアンメットニーズを満たすべく、自動腹膜灌流用装置では初めてとなる、カラーアニメーション画面・自動バッグ接続・自動バッグ識別機能を搭載しました。

さらには、インターネット接続を可能とし、日本初となる腹膜透析用治療計画プログラム シェアソースとの使用による各種遠隔機能により、新たな治療体制・管理体制の構築への可能性がひろがりました。

操作性の向上

かぐやの3つの特徴



1 わかりやすさ

●Step by step の操作案内

見る

8.5 インチの操作パネル へのカラーアニメーショ ン

聞く

併用する医療機器(男性の声)との混乱を防ぐため女性の声を採用

読む

文章の表示(視認性の高いヒラギノUD角ゴFフォントを使用)

- ●操作パネル以外の操作部は、 本体色と識別しやすい黄色
- ●カタカナ名称使用の最小化



患者さん・医療者のことを考えた

- 夕 安心
 - ●自動機能

自動バッグ識別

薬剤容器の 2D バーコードを内臓カメラにより読み取り



腹膜透析液バッグと専用回路を非接触 で自動接続

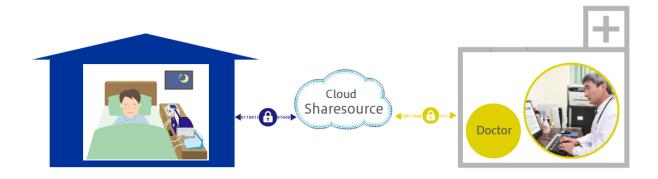




●各種遠隔機能(シェアソースとの併用)

遠隔治療モニタリング/装置設定

医療者は「かぐや」での治療結果を、インターネットを通じてセキュリティに保護された環境下で閲覧/設定変更が可能



期待できる効果

- ●不適切な治療のリスク低減 1)
- ●患者さんの通院負担の軽減と共により安全に配慮した 治療継続^{2/3/2}
- 1) Drepper VJ, et al. Remote Patient Management in Automated Peritoneal Dialysis: A Promising New Tool. Perit Dial Int. 2018; 38(1): 76-78.
- 2) Makhija D, et al. Remote monitoring of automated peritoneal dialysis patients: Assessing clinical and economic value. Telemedicine and e-HEALTH. 2018; 24(4): 1-9.
- 3) Manani SM, et al. Remote Monitoring of Automated Peritoneal Dialysis Improves Personalization of Dialytic Prescription and Patient's Independence. Blood Purif. 2018; 46: 111-117.

3 ライフスタイルとの共生

患者さんの"医療機器とわかる物を家庭内に置きたくない"というニーズに応え、操作パネルは収納式にし、保管時に医療機器に見えにくい夜をイメージするカラーと外観デザインを目指しました。





更なる在宅腹膜透析の普及に向けて

「かぐや」は、これからも日本の患者さん・医療者の二一ズにこたえるべく、より多くの腎不全患者さんに安心して使用いただけるための製品の改良という恒久的な目標を掲げ、継続した活動に取り組んでまいります。

- ■かぐや:自動腹膜灌流用装置 販売名:ホーム PD システム かぐや(承認番号 22800BZX00454000)
- ■シェアソース:腹膜透析用治療計画プログラム 販売名:シェアソース(承認番号 22800BZX00345000)
- ※バクスター株式会社公式サイトはこちらをご覧ください。

www.baxter.co.jp

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介①は IAUD Newsletter vol.12 第 1 号 (2019 年 4 月号) をご覧ください。

https://www.iaud.net/newsletter/11215/



VIAUD 2019年5月の予定

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3 憲法記念日	4	5
6 振替休日	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16 13:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	17	18	19
20	21	22	23	24 13:00~ 手話用語 SWG @IAUD サロン	25	26
27	28	29	30	31 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン		

次号は6月上旬発行予定

特集:余暇の UDPJ アンケート実施報告/「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」開催報告④/「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介③ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階 電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net